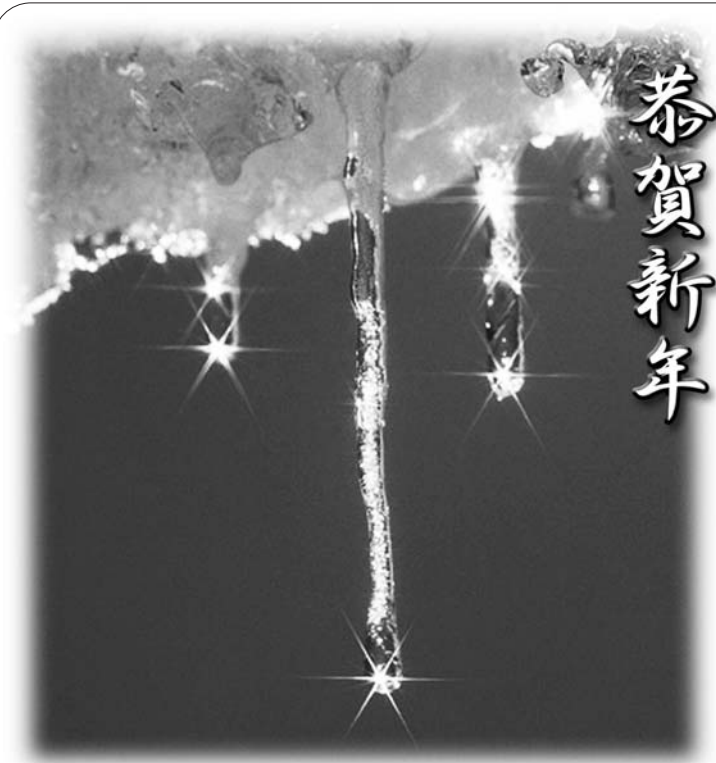




# テレマカシー

vol. **19**  
2009.1.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。



旧年中は大変お世話になりました

お蔭さまで昨年は、医療的ケアが必要な障がい児の預かり施設うりずんを開所することができました  
安全・安心・安楽のケアを今後も目指して行きます

また昨年は、在宅、外来、そしてうりずんにおいて  
制度の狭間にある人たちが少なくないことを実感した年でもありました

今年も皆さまのお力をお借りしながら  
目の前の必要なことに関わって行く所存です  
今後ともご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます

2009年1月

ひばりクリニック・うりずん  
高橋 昭彦

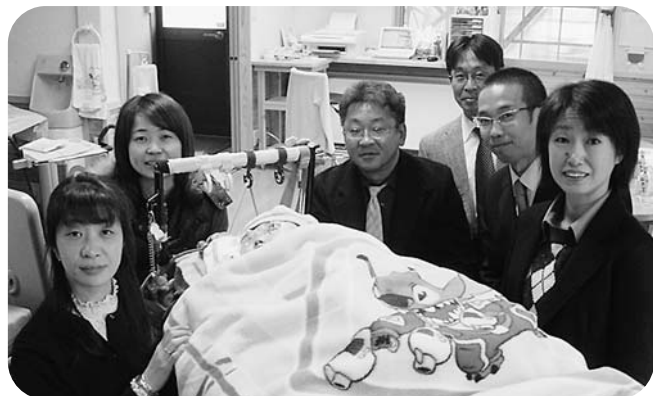
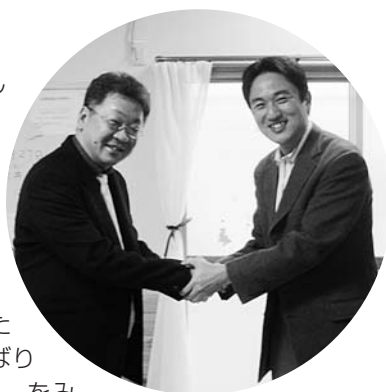
2008年11月に、横浜市の「能見台(のうけんたい)こどもクリニック」(小林拓也理事長)の皆さんが当院のうりずんを訪れました。能見台こどもクリニックは1999年に横浜市で開業の後、2002年には医療法人となりました。併設のケアハウス「輝きの杜」では、障がいの  
に  
わらず、  
が必要な障がい  
を日中  
かり、家族を  
して  
られます(14名)。  
もあり、  
もうりずん(名)とは  
物になら

ないのですが、どうして横浜からわわうりずんにられたのでしょうか。

小林さん く「うちがはじ た9年 は、  
じことを っている  
人が日 にはいなかった  
のです。たまたま、 ぱり  
クリニック をみ  
て、 いた ってね。皆大  
でしたね」。

「 はどうあれ、 じ思いですから。医療と の  
にこぼれてしまった どもをどう っても は せない。  
せない は、自分のできることを うと。そういっ  
ても も らなかったから。 当に しかったです」。

小林さんが かりを たとき、 どこにも、 療所  
で 障がい を かるこ とがなかったそうです。そこ  
で、うりずんが ンしたことをとて も んでくださり、  
横浜から に っ て に てくださったというわけ  
です。 まる1日でした。





# 末期がんの在宅緩和ケア

～そのとき、どこに相談するのか～



年明けにミチオさん(仮名・72歳男性)がなくなった。末期がんだった。ミチオさんは奥さんと2人暮らし。ミチオさん宅への初めての往診は、12月29日のことだった。

## ❖ 家族からのSOS ❖

家族から電話が入ったのは、12月27日の午前中だった。年末で外来は混みあっていた。ミチオさんの娘さんの話を在宅担当事務が聴いた。

ミチオさんは病院が嫌いで、10月末に検査入院しときは、すでに胃がんが進行し食べ物の通りも難しい状態だった。肝臓に多発性の転移もあり、あと3か月という診断を受けた。家族の希望で本人には告知はしなかった。ミチオさんは検査をした後、すぐに家に帰ってきた。以来、ミチオさんと家族は一度も病院を受診していない。やがて食べ物が入らなくなり、娘さんは年末年始の間もたないのではないかと心配になり、相談があったのである。

## ❖ 面談 ❖

当院は在宅医療の利用者数の上限を定めていたが、年末にかけてすでに上限を超える状態だった。どうしたものかと考えた。しかし他に手段がないことから在宅医療を受ける覚悟で面談を行うことにした。

12月29日の午後、奥さんと2人の娘さんが来院した。当院が在宅医療を行うということは、家族ぐるみで当院を受診しているミチオさんの親戚から聞いていたようだ。

改めて病状の経過をうかがう。確かに、今夜のうちに一度診察をしておかねばならない病状だった。しかし、まず方針を明らかにする必要がある。在宅ケアで最も大切なことは、本人がどうしたいのかということである。そこで、「がんという単語は使わないようにしますが、最期はどこで暮らしたいか、と聞いてもいいですか」と家族に告げて了解を得た。

## ❖ 初めての往診 ❖

その夜、直前に依頼した訪問看護ステーションの管理者と一緒にミチオさんの家を訪れた。ミチオさんは、居間のコタツで休んでおられた。コタツの正面にある書棚には各県の地図がずらりと並んでいる。博識のミチオさんは、地図をながめるのが好きだったという。新聞も端から端まで目を通していた。ノートには、気温、体温、便、尿などが克明に記録してあり、自分なりの流儀を大切にされる方だと思った。隣の部屋には布団が敷かれ、枕元にはラジオ、新聞、おやつ、飲み物が置かれていた。NHKのラジオ深夜便がお気に入りだった。

ミチオさんは、意識こそしっかりしているが、かなり衰弱していた。肝臓は触ると硬く、表面はごつごつしていた。胃にも大きな腫瘍が触れた。食事はもうのどを通らず、ジュースなどの水分がわずかに通るだけだった。

## ❖ 最期はどこで暮らしたいですか ❖

ミチオさんと向き合った。そして「このまま食べられなくなったら弱っていきます。人生の最期はどこで過ごしたいです

か?」と尋ねた。ミチオさんは「病院へ入院するのは嫌です。家で最期まで暮らしたい」と答えた。それを見た家族もうなずいた。

次は、医療と看護の体制を説明する。在宅医療と訪問看護が一緒に入ること、24時間体制でケアを行うことができること、何かあったときにはいつでも往診できることを伝えた。訪問看護も休み体制に入っていたが、年末と年始に訪問を入れてくださることになった。正月に私が県外に出る期間があったため、ミチオさんの情報を連携医と共有することも伝えた。

がん性の痛みはなかったが、年末年始に備えて、痛み止めの坐薬(麻薬と麻薬でないもの)を処方した。薬があれば、電話のやり取りで訪問看護に対応してもらうことも可能なのである。

## ❖ 看取り ❖

年明け早々、訪問看護より連絡が入った。年末年始に微熱があったが落ちついてきたこと、食事は入らず、水分も充分でないという話があった。やがてある日の昼、訪問看護より「下血があります。血圧も60台です」と急ぎの連絡が入った。

往診すると、ミチオさんは2人の娘さんに囲まれていた。すでに下顎呼吸といって末期に見られる呼吸だったが、挨拶すると「ご苦労様です」と返事があった。血圧はもう測れない状態だった。外出中の奥さんをお呼んだ方がいいと声をかけて、私は次の訪問先へ向かった。

やがて再度連絡が入った。その日の夕方確認に向かった。ミチオさんはおだやかな顔で永眠されていた。

## ❖ 在宅緩和ケアの調整 ❖

最期までその人らしく自宅で過ごすためのケアを「在宅緩和ケア」という。在宅緩和ケアの開始時にはさまざまな準備が必要だが、まず、本人が病状をどう捉えているのか、本人の希望はどうか、本人と家族の思いにズレはないか、介護の体制はどうか、など聴いて調整することが肝心である。末期がんの場合はそこに速さも要求される。当院で使用している在宅緩和ケア開始時の調整のポイントを表に示す。語呂合わせで「カイコ ホケコ」という。

### 在宅ケア開始時の調整のポイント

- カ 介護保険の申請
- イ 医師(在宅医)の確保
- コ 告知状態(がんや難病の場合)の把握
- ホ 訪問看護の確保
- ケ ケアマネジャーの確保
- コ 後方病院(入院可能な病院)の確保

\*これらの調整がなされていると、在宅への移行は比較的円滑に進むことが多い。

ミチオさんの場合、「カイコ ホケコ」が何も整っていないのは無理もなかった。さらに役所は休みに入り、介護保険の申請は年明けになってしまい、結局調査が間に合わなかった。もしエアマットや介護ベッドが必要な場合には全額自費で借りることになっただろう。訪問看護もケアマネジャーも頼むと快く受けていただけたが、ほとんど病状の把握ができていない末期の方をこの時期から担当するのは、受ける側としては厳しい話ではある。退院した病院も休み体制に入っていたので調整を依頼できなかった。

## ■ そのとき、どこに相談するのか ■

では、末期がんの人が地域で暮らしたい、という希望があった場合、家族はどこに相談すればいいのか。病院に入院している場合は、病棟の医師や看護師を通じて、医療相談室や地域連携室など名前はさまざまだが、「退院支援・地域連携」を行う部門に連絡をとってもらい相談する。もし、病棟にうまく話が通じない場合には直接相談室に話をしてもいい。そこには、医療保険や介護保険の制度に通じ、在宅緩和ケアの準備や調整ができる医療ソーシャルワーカーや、退院調整看護師などのスタッフがいる。

病院を退院後に外来通院をしている人も、やはり病院の相談室で相談したほうがいい。その上で、相談室から地域の訪問看護やケアマネジャー、そして当院のような在宅療養支援診療所に連絡をしていただくと、医療的な情報も確実に得られる。

ミチオさんのように、退院後一度も通院しない人は、そももかないので地域の誰かが関わらねばならない。最寄りの訪問看護ステーションやケアマネジャー、さらに在宅療養支援診療所に相談することになるだろう。

## ■ おわりに ■

がん対策基本法が施行され、がんの人が地域に帰ることが増えてきているが、ていねいな調整がなされていないことがある。病院で「今しか帰れない」といわれても、その前に調整するチャンスは必ずある。地域の訪問看護や在宅療養支援診療所などの資源もまだ限られているので、関わるスタッフが、この人が家に帰った場合どうなるのか、準備しておくことは何か、などをイメージしながら早め早めに関わる動きが進んでほしいと考えている。

**お** 蔭さまでうりずんも無事に初の新年を迎えることが出来ました。うりずんは「年度」で運営していますので、3月には新年度(21年度)にむけて、行政及びご利用者との契約更新手続きが必要になります。

さて、今回は契約手続きについてのお話をいたします。

うりずんでは、医療的ケアの必要な障がい児・者が利用対象になっていますので、何よりも第一に安全面を考慮しなければなりません。そのため、事前に「主治医の情報提供書」をいただき、直接ご家族やご本人から現状のお話を聞きます。その内容を基にして、スタッフが気をつけなければならないこと、提供出来るサービスの内容を確認しています。



▲同級生とクリスマス  
(左:だいき君、右:たける君)



▲なつみさん初の抱っこ遊びと三上看護師

**な** ぜならば、うりずんはいつでも安全に安心して預けられる「レスパイト施設」を目指して運営しているからです。

レスパイト施設……聞き慣れない言葉ですよね。地域で生活するには、いつ何時、介護者を含む家族の健康問題や冠婚葬祭、保育園や学校行事、地域の行事などによりやむを得ず介護できない状況が発生します。その時に緊急時も含めて安心して預けられる場所、それが「レスパイト施設」なのです。

医療的ケアが必要な方々は、一人ひとりその家庭の方法や個人にあった方法で対応することが多く、うりずんでも個々にあった、家庭の方法を実施しています。そのため、詳細の内容を聞く、見るという時間が必要なのです。

**こ** のような事務手続きや情報収集の時間がとても重要となり、

契約を結んでご利用になるまでに時間が必要です。極力、皆様に負担をかけぬよう最低限の日程調整で契約を結ぶように努力をしています。

しかし、障害者手帳の所持と宇都宮市の決定通知書が必要なため、事前にその手続きを済ませていただければ更にお時間がかかります。そのため、本来利用したい期日までに契約が間に合わないことが起きることもあるのです。

この事務手続きは、ご家族や地域でサポートしようとする事業所の方々にとり、わかりやすいものとは言えず、途方にくれている様子が見られます。

ぜひ、迷ったら宇都宮市の障がい福祉課、ケースワーカー、障がい者相談支援専門員の配置されている事業所にご相談ください。一日でも早く手続きを済ませて利用できるのを願っています。



▲これが横浜組より伝授のラップによるウルトラマンアイマスク(眼の乾燥を防ぐ)



▲たけるくんの書初め

## うりずん日記

うりずん サービス管理責任者  
看護師 三上綾子

### ●10～12月のご利用状況

| 区分 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|----|
| A  | 7   | 8   | 8   | 23 |
| B  | 8   | 5   | 8   | 21 |
| 計  | 15  | 13  | 16  | 44 |

- \* 区分A……人工呼吸器装着の方
- \* 区分B……人工呼吸器を必要としない方
- \* いずれも延べご利用人数です

### ●10～12月のご来所状況

|        | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|----|
| 見学者    | 7   | 25  | 8   | 40 |
| ボランティア | 8   | 0   | 2   | 10 |
| 計      | 15  | 25  | 10  | 50 |

- \* ボランティアは延べ人数です

### ●現在の登録状況

|                    |    |
|--------------------|----|
| 区分A(人工呼吸器装着の方)     | 3名 |
| 区分B(人工呼吸器を必要としない方) | 5名 |
| 合計人数               | 8名 |
| 契約準備中の方 区分A        | 0名 |
| 契約準備中の方 区分B        | 1名 |
| 契約準備中の方の合計人数       | 1名 |

- \* 登録ご利用者の年齢……1歳～15歳

### ●10～12月の寄付関係

|      |    |
|------|----|
| ご寄付  | 5件 |
| ご贈答品 | 3件 |

うりずんで梨を切るゆうきさんとボラの早川さん



▲ゆったり読書タイム  
たかひろ君と中川介護福祉士



# わっさわ〜く

## 第13回「在宅ケアネットワーク栃木」 《開催のご案内》

**時** (水・祝) 10:00分~15:30頃  
**場 所** 自治医科大学 地域医療情報研修センター  
**大会長** 趙 達来さん(真岡西部クリニック)  
**テーマ** 頑張らない生活介護  
**内 容** ●基調講演「認知症の介護負担 ~ケアと尊厳のバランス~」

山口 晴保さん(群馬大 医 部保健 科教授)

### ●シンポジウム「頑張らない介護生活」

別府 明子さん(品川介護 専門 校教務主任)  
 鈴木 恵子さん(すずの 代表、川崎市)  
 榎田美智子さん(NPO法人メイアイヘル ュ 理事)

※後半は座談

※閉 後自由集 ( 場は研修センタ 議室を予 ) 17:00まで

在宅ケアに のある方ならどなたでも参 できます。  
 1 000 、 生 00  
 当1 000 ( )

な大 のた 事 し みにご ください  
 り

費振込 (郵便振替) 記号番号:00180-1-418778  
 入者名:在宅ケアネットワーク栃木

郵便振替をご使用下さい。通通信欄に 者住所、参 者  
 の氏名、**弁当の数**を書き、合計額を 送ってください。  
 当日名札を用意して きます。

### 連絡先

(学校法人) 産業教育事業団内在宅ケアネットワーク栃木事務局  
 〒328-0012 栃木市平柳町 2-1-38  
 電話・FAX : 0282-29-1050  
 E-mail : carenet@cc9.ne.jp  
 ホームページ : http://www.cc9.ne.jp/~carenet/



## テレマカシー18号へ 寄せられた感想から

### ●北海道について

北斗星での北海道旅行、たいへん良かったですね。先生にいちばんの薬は、このような休日です。忙しい人ほど、そんなヒマはないという人ほど、休みを取る必要があると、自分の経験から断言できます。休みを取って、いちばん良いことは、ぼくの場合、なぜか患者さんに優しく、大らかに接することができるという効き目でした。(中略)また次の旅行を勇気を持って実行して下さい。

(宇都宮市 矢吹清人さん)

### ●旭山動物園について

この8月に私も家族といっしょに旭山動物園を訪れました。あの数字の中の4名分です。動物園の随所に智恵と工夫、そして気持ちの輪を感じました。地域医療そして地域づくりにもとても参考になると思いました。

(下野市 梶井英治さん)

♥ テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(\_)>

## 「ひばりクリニック」のご案内

### ● 診療時間 ●

| 時 間          | 日    | 月  | 火  | 水    | 木  | 金    | 土  |
|--------------|------|----|----|------|----|------|----|
| 9:00~12:00   | (休)  | ○  | ○  | (休)  | ○  | 訪問診療 | ○  |
| 午後<br>(在宅医療) | (休診) | 訪問 | 訪問 | (休診) | 訪問 |      | 訪問 |

### ● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14  
 TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899  
 E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp  
 URL http://hibari-clinic.com/



栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。

- JR宇都宮駅から「まんちっく村」バス約 分
- 車で 東北自動車道 宇都宮ICより 分 宇都宮 まんちっく村 入口向かい側

●この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。